AMDA 多様性の共存 ジャーナル

2020 年 1 月 25 日　VOL.43　第 292 号　定価 550 円
発行／ AMDA　〒 700-0013　岡山市北区伊福町 3-31-1
TEL 086-252-7700　FAX 086-252-7717
E-mail:member@amda.or.jp
郵便振替：01250-2-40709　口座名：特定非営利活動法人アムダ

2020 年
冬 号
冬

救える命があればどこまでも

特定非営利活動法人アムダ（AMDA）
https://amda.or.jp/
特定非営利活動法人 AMDA 社会開発機構
https://www.amda-minds.org/
特定非営利活動法人 AMDA 国際医療情報センター
https://www.amdamedicalcenter.com/
AMDA 兵庫
http://amda-hyogo.com/

2020 年 新春のごあいさつ

AMDA 理事長　菅 波　茂

気候変動により災害が多発しています。従来の地震に加えて水による災害が特徴です。

2014 年に「AMDA 南海トラフ災害対応プラットフォーム」として巨大な津波による被害が予想される徳島県と高知県と災害支援協定を結びました。以後、自治体、医療機関そして経済産業界の 3 者が AMDA と連携して、対応能力の向上に努めてきました。更に 2019 年 7 月には水災害に対応する「AMDA 災害医療機動チーム」が発足しその機能充実に努めています。これまでに多くの方々にご支援をいただいています。ここにあらためて感謝申し上げます。

2017 年 11 月、当時の横倉義武世界医師会長（日本医師会長）に世界医師会災害医療ネットワーク構想を提案し賛同を得て、国連・各国政府・世界医師会・NGO/NPO・大学・公益団体・企業の 7 者連携を中心に進めてきました。AMDA は 2019 年が設立 35 周年になりますが、過去に蓄えたすべての Human Network をこの 7 者連携の構築に組み入れています。2020 年 5 月頃には「世界災害医療プラットフォーム：アジア大洋州版」として発足する予定です。AMDA としては、従来よりさらに大きな枠組みで、世界の災害被災者の支援にお役に立つことができると思います。嬉しく思っています。この機会をいただいた横倉会長には心から感謝しています。

日本政府の予想では、南海トラフ地震で発生する巨大津波による損害は死者 30 万人以上、被災者 3 百万人以上、流通機能は 30%に低下して 2 カ月以上も続くとのことです。明確に言えることは、日本 1 カ国ではこの災害被災者救済には対応できない状況です。海外からの支援が不可欠です。海外からの支援を抜きに南海トラフ対策は考えられません。

「世界災害医療プラットフォーム：アジア大洋州版」は「AMDA 南海トラフ災害対応プラットフォーム」とコインの裏表です。

即ち、南海トラフによる地震や津波が発生した時にはこのプラットフォームに参加している団体が支援に駆けつけてくれます。2 つのプラットフォームの理念は相互扶助です。困った時はお互いさまです。

「救える命があればどこまでも」をスローガンに本年も全力で頑張ります。皆様方のご理解とご支援をよろしくお願いします。

AMDA 感謝と報告の集い

日頃お世話になった方々に「ありがとう」の気持ちを伝える初めての「AMDA 感謝と報告の集い」が 12 月 15 日、岡山市内で開かれ、出席者 126 人と楽しいひと時を過ごしました。

集いは菅波茂理事長が「お互いが助け合って、大きな力を発揮していきましょう」と述べて開幕。活動報告に移り、徳島大学大学院歯薬研究部総合診療医学分野特任助教の鈴記好博先生をはじめ、生活協同組合おかやまコープ全体理事の市川洋子様ら 6 人が発表しました。

感謝状は出席を代表して、フィリピン大統領府和平プロセス大統領顧問オフィス事務局長などを務めるグロリア J メルカド様ら 2 人に手渡しました。

続いてブラジルのサンバ、フィリピンのバンブーダンス、アイルランドの伝統音楽を披露、会場の皆様が輪になって踊ると、ムードは最高潮に達しました。

（広報担当参与　今井　康人）

インド活動報告

1. 多発する災害に備え協力協定を締結

11月5日、AMDAは南アジア地域協力連合医師会（SAARC Medical Association）と災害時における支援活動などに対する相互協力協定を締結しました。SAARCとはインドを含む南西アジア8カ国が加盟する、福祉、経済社会開発、文化などの分野における地域協力枠組みです。

菅波代表（左）とSAARC医師会会長（右）

南西アジア地域または日本で大規模災害が起こった際には協力して支援活動を実施します。

加えて、11月16日、インド南部カルナタカ州シモガ県にあるスバヤ医科大学と、AMDAは災害対応に関する協力協定を締結しました。頻発するインド国内での洪水などに対する災害対応のみならず、防災、減災にも焦点をあてて、教授や学生を対象とした講義、コミュニティへの災害対応教育など、今後の活動の可能性についても話し合いました。

菅波代表（左）とスバヤ医科大学ラタ医師（右）

2. インド東部ビハール州ブッダガヤにおける活動

AMDAは、2008年にブッダガヤに開院したAMDAピースクリニック（APC）を拠点に母子保健分野を中心とした活動を展開しています。現在では、現地団体と協力して生活支援も行うなど、活動分野を広げています。

AMDAピースクリニックと隣接施設の11周年式典

【AMDAピースクリニックの活動】

2018年10月から2019年11月の1年間で、計45人の妊婦が当クリニックに登録し、妊婦健診、APCスタッフによる自宅訪問、健康教育・栄養プログラムを実施しました。登録している妊婦には、グンゼ様より提供いただいているショーツを配布しています。

AMDAピースクリニックスタッフからショーツを受け取る妊婦

【ヘルメット配布～インドで交通安全啓発活動～】

11月12日、AMDAは協力協定を締結しているブッダガヤロータリークラブと、万が一の事故に備えて、命を守るヘルメットをブッダガヤ在住のバイク乗用者、計100人に対して配布しました。配布時には、ブッダガヤ地区があるガヤ県の統括担当官も参加し、「11月15日からヘルメット着用などの交通安全強化に取り組む予定です。この啓発活動は丁度良いタイミングです。」と現地メディアに話しました。

AMDAインターナショナル顧問よりヘルメットを受け取る住民

【ブッダガヤ・ダンプール村で衛生教育を実施】

APCから10kmほど離れたダンプール村の約130人を対象とした衛生教育を行いました。以前、井戸建設支援をした村でもあります。

APCスタッフが排泄後や食前の手洗いの重要性、毎日身体を清潔に保つことの大切さ、歯の磨き方について説明した後、村の人たちに学んだ内容について質問しました。衛生教育のためにJ.S. Foundation様にご支援いただいたタオルを参加者に配布したところ、発想力豊かな村人たちは配布したタオルを器用に頭に巻いたり、手拭きとして使用していました。最後に、クッキー、キャンディーもあわせて配布しました。　（インド担当　岩尾　智子）

衛生教育の様子

◇連載企画「AMDAピースクリニックの挑戦」㊦は、紙面のスペースの関係上、次回の「ジャーナル（春号）」に延期させて頂きました。ご了承ください。

ルワンダ学校保健・健診と第１回シンポジウム開催

アフリカのルワンダはアフリカ中部の小国ながら1,200万人の人口を有するアフリカで最も人口密度の高い国で、急速な発展を遂げながらも今、大きく変わろうとしています。

AMDAは1994年にルワンダ難民支援に対する緊急医療支援チームを派遣。その時にAMDAチームと出会い通訳として共に活動したルワンダ人のマリールイズ氏が、後に日本で「NPO法人ルワンダの教育を考える会」を運営し、ルワンダで学校を始めました。

ルワンダの小学生を診察する頼藤医師

2015年にAMDAに対して学校保健の知識・技術移転への支援要請があり、最初にルワンダの地方公立病院の院長であったルワンダ人医師、カリオペ氏を岡山県の助成を受けて招へい。知識・技術を自国に持ち帰り、マリールイズ氏の運営するウムチョムイーザ学園で試験的に学校健診を導入しました。学校保健の考え方そのものがないルワンダでの健診導入には関係者の理解を得ながら進める必要があるため、年に1度日本（主に岡山）から小児科医師を派遣し、カリオペ医師と共に活動しながらノウハウの普及、データ整理や予防教育への助言を行ってきました。日本人医師の派遣は、行政関係者、学校の校長先生やPTA、両親の理解を得やすくなるという利点もあります。

今年は9月15日から23日までカリオペ医師（長崎大学熱帯医学研究所留学中）、頼藤貴志医師（岡山大学大学院医歯薬総合研究科教授）、AMDA看護師の3人がルワンダを訪問し活動。

健診は、9～10月にかけ現地ルワンダ人医師や看護師、日本から訪れたAMDAチームが段階的に実施、計4校で1323人に行いました。初めての試みとして第1回学校保健シンポジウムを行い、ルワンダの行政関係者、学校関係者、医療関係者、医学生を対象に日本の学校保健紹介を行い参加者からは「どうすれば多数の子どもたちの健診を効率よく実施できるのか」「早期発見したその後をどのようにすればよいか」など活発に質問が出ました。実際に健診を実施した学校の校長先生からは子どもたちの変化や健診の実際の様子が語られ、参加者は耳を傾けていました。

（プロジェクトオフィサー　橋本　千明）

東北を元気に！　復興グルメF-1大会

宮城県気仙沼市・南町紫神社前商店街　**坂本　正人**

2019年11月24日、第16回復興グルメF-1大会が南三陸町志津川で行われました。昨年は、水害被害のため断念しましたが、今年も水害が日本各地で起こり、大会開催が危ぶまれました。復興グルメF-1大会の理念である各被災地の風化防止、また、「集まろう！伝えよう！つながろう！」といった意味もあり、今年は開催することを実行委員会で決めました。東日本大震災から9年が経ちますが、東北の被災地はまだ復興途中です。

ここ近年、各地域で毎年のように甚大な災害が起こっていますが、復興にはかなり時間がかかると思います。そういった中、国では復興支援の継続が決まりました。これは大変喜ばしいことです。F-1大会を終えて、これから起こりえる災害をみんなで共に考え、また、災害に遭った被災地を忘れないで思いやることが大切だと改めて感じました。

9年間東北各地の被災地支援をしてくれているAMDAの方々、また、毎年岡山からF-1大会のお手伝いに来てくれているボランティアの皆さんに心より感謝致します。

AMDAがボランティアバス運行

AMDAは、宮城県南三陸町での「第16回復興グルメF-1大会」開催に合わせて、11月22日から4日間ボランティアバスを運行しました。参加者はAMDA中学高校生会のメンバーを含む16人。大会前日は気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館を見学し、大会当日は会場準備や店舗の手伝いなど大会の成功に貢献しました。

（赤磐市研修職員　山田　章博）

連載インタビュー「支える喜び」シリーズ 第23回

AMDA沖縄支部長　大仲　良一 様

AMDAを支えてくださっている支援者の皆様に、インタビュー形式で様々なエピソードをお伺いしている「支える喜び」シリーズ。２３回目となる今回は、AMDA沖縄支部（沖縄市）の支部長で、沖縄セントラル病院の理事長・病院長を務められる大仲良一様にお話を伺いました。　（聞き手・理事　難波　妙）

AMDA　沖縄支部設立の経緯を教えてください。

大仲支部長　私は、インドでポリオ撲滅の実態調査などの医療支援活動を沖縄西ロータリークラブでやっていたんですよ。そのころにAMDAの菅波茂代表と出会いました。その後また菅波代表と神奈川の小林米幸先生と一緒にAMDA国際医療情報センターの開設に関わりました。正式にAMDA沖縄が発足したのは1994年10月でした。

AMDA　どのような活動をなさったんですか？

大仲支部長　中南米での豪雨や地震の緊急医療支援に加え、旧ユーゴから戦時下にある子どもたちの心のケアのために精神科の先生を招聘したりしたこともあります。

AMDA　2004年のスマトラ島の大津波の時にはAMDA沖縄から看護師が、そして2010年ハイチ地震、2017年ペルー洪水の時は、医師がAMDAの活動にご参加いただきましたね。

大仲支部長　ペルー洪水の時は、うちの病院で働いているペルー出身の渡久地（とぐち）医師が率先して行ってくれましたからね。

AMDA　2004年第２回「沖縄平和賞」をAMDAが沖縄県からいただいた時、菅波代表が、沖縄と中南米に住む沖縄の人を結ぶ血縁共同体社会の絆の強さを中南米の緊急救援活動のたびに実感させられたと語りました。まさしく沖縄の風習「ゆいまーる（互助の精神）」ですね。

大仲支部長　AMDAの南海トラフ災害対応プラットフォームの取り組みを聞きました。南海トラフ巨大地震

が発生したとき、沖縄が出来る事があると私は思っています。距離的に、沖縄から被災地にすぐに向かうということは現実的には難しい。しかし、一時的であれ、移住してくる被災者を受け入れる場として備える。そのシステムを構築する必要があります。

AMDA　沖縄で大きな地震はなかったんですか。

大仲支部長　過去において約250年ほど前でしょうか。明和の大津波と言いまして八重山の方で大きな地震があり、1万人以上の方が被災しています。ただ、沖縄は地震の備えというよりむしろ台風と津波の影響ですね。ペルーで30年ほど前にあった地震の津波の余波が沖縄まで到達したこともあります。内地のような頻繁な地震はありませんから、南海トラフ大地震が起きた時、被災者の受け入れは可能だと思います。

AMDA　東京のAMDA国際医療情報センターとも一緒に活動されたことがあると伺いました。

大仲支部長　洋上救急、つまり海上での救急搬送のための支援の会の会長もしています。宮古島の方は、中近東の航路になっており、そこで支援要請があり、ヘリコプターで患者さんを救出して治療しました。アラブの方でしたので全く言葉が通じなくて本当に困りました。その時に小林先生に連絡をとりまして、通訳していただいたことがありました。

AMDA　今後の抱負をお聞かせください。

大仲支部長　83歳になりました。まだ脳外科医として働いています。「イチャリバチョーデー（出会ったその時から皆兄弟）」の精神に基づいたAMDA沖縄の活動理念はAMDAの活動理念でもある「多様性の共存」に共通すると思います。沖縄戦を生き抜いた医師として在日外国人も含めた平和共存の社会の実現になるべく長く貢献していきたいと思います。

2017年４月ペルー洪水被災者支援活動での渡久地医師

特定非営利活動法人 AMDA国際医療情報センター理事長　小林 米幸

言葉がわからずに困っている外国籍患者を支援したく、沖縄に飛び、一晩、大仲先生と話し合い、翌朝、おいしい食事をいただいたのは30年以上も前のことです。お元気で変わらぬ情熱をお持ちであることに敬意を表します。

（インタビュー内の敬称は省略させていただきました）

東日本で猛威を振るった台風19号

10月12日（土）から13日（日）にかけて東海と関東、甲信越、東北地方を襲った台風19号により、各地で河川の堤防の決壊や氾濫による浸水、土砂崩れなどが多発し、非常に広範囲に甚大な被害をもたらしました。AMDAは長野県、福島県及び宮城県で支援活動を行いました。

「地域を支える医療を支える」長野での支援

長野市千曲川流域の被災現場のようす

台風上陸前の10月11日より、台風15号で被害が大きかった千葉県に入り情報収集を行いました。被害状況の検討の結果10月13日、千曲川の堤防決壊により甚大な被害が出た長野へ入り、最初の3日間は長野市内の2カ所の避難所で夜間の健康相談も含めた24時間体制で活動。長野市最大の避難所となった豊野西小学校を拠点とし、避難者情報の収集、ダンボールベッドの導入、衛生改善活動、特別に対応が必要な方のケアなどを長野市職員や長野市保健所、関係団体と連携をとりながら行い、20日に全ての避難者、要支援者情報を長野市保健所と後続の医療団体に引き継ぎました。

21日からは、長野市豊野町の賛育会クリニックの早期再開への支援を行いました。昨年の西日本豪雨で同様の被災をした倉敷市真備町のまび記念病院とよく似た状況で、1階部分にあったクリニックが水没。278人いた入所者の緊急避難が終了したタイミングで早期の事業再開を目指しAMDAへの要請を受けました。まび記念病院村松院長、岡山県総社市の吉備医師会からも助言を受け、岡山での経験、教訓を長野に繋ぎ調整をすすめ、賛育会クリニックは11月5日に問診と処方からクリニックを再開、かかりつけの患者さんから喜びと安堵の声が聞かれました。11月8日、地元医師会を含めた地域に関わる医療関係者を交え、互いに協力していく会合が開かれたのを見届け、AMDAは活動を終了しました。なお、長野県内の支援に関しては今年2月に連携協力協定を締結した長野県茅野市の諏訪中央病院の協力を頂きました。　（プロジェクトオフィサー　橋本　千明）

豊野西小学校避難所での活動

福島県相馬市及び宮城県丸森町での支援

台風19号により甚大な被害を受けた福島県相馬市に10月14日、AMDAと協力協定を締結する総社市及び赤磐市が職員を派遣することを決定。AMDAも調整員2人を派遣しました。

相馬市役所に到着後、相馬市長と面会、市内の被害や支援状況などの情報収集を行い、避難所となっているスポーツアリーナそうまにて、活動を実施することとし、看護師1名を増員。15日から18日まで健康相談や環境整備などの活動を行いました。

相馬市の避難所での避難者の血圧測定の様子

また、更なる支援ニーズ調査のため、16日に宮城県仙南保健所医療調整本部の会議に出席。保健所の要請により、同県丸森町の避難所の一つである丸森小学校で避難所の環境整備などの支援活動を行うこととなりました。

宮城県丸森町小学校にて鍼灸治療をするAMDA鍼灸師

同避難所では17日に、他の支援者と協力し段ボールベッドを設置して、避難所内も土足厳禁としました。翌日から23日までは避難者の保健医療支援と避難所の環境整備を行いました。

また、22日より同小学校に鍼灸師2人を派遣、災害鍼灸活動の可能性を考慮し、調査及び調整を実施。そして23日、その結果を踏まえ関係者との最終調整の末、避難者を対象とする鍼治療の実施を決定し、その日から災害派遣医療チームの撤退と地元医療機関再開予定日であった10月31日まで災害鍼灸活動を行いました。

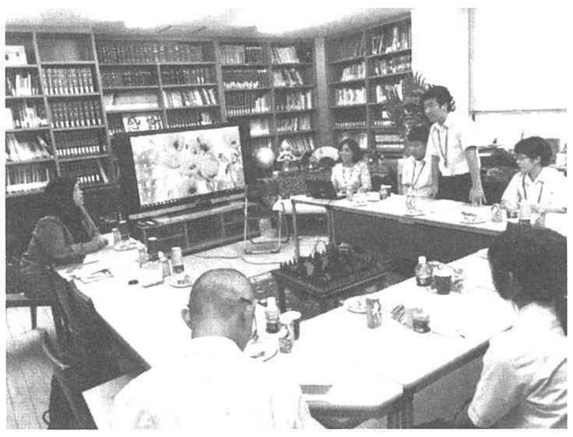
相馬市、丸森町どちらの避難所も撤収時には、多くの避難者の見送りを受け、たくさんの感謝と労いの言葉をいただきました。

なお、AMDAは10月16日からの16日間の丸森小学校での活動において、16人（看護師2人、理学療法士1人、介護福祉士1人、鍼灸師9人、調整員3人（AMDA職員含む）を派遣しました。

（赤磐市研修職員　山田　章博）

新庄中学生がインドネシア大使館を訪問

2019年8月1日に、岡山県新庄村の新庄中学校生徒（男子3人、女子5人）が駐日インドネシア大使館を訪問し、新庄村の紹介をしました。


インドネシア大使館にて発表をする新庄中学校生徒

この訪問は「中学生の国際理解を深めたい」と新庄村から提案があり、そのうえ、これまで新庄村とAMDAが協力して実施していたインドネシアでのAMDAフードプログラムの歴史があり、実現しました。

参加した中学生らは大使館でアリンダ教育担当部長らと面会。緊張した表情ながら元気にあいさつを交わし「コミュニケーションの大切さを感じた」などと新たな学びを得た様子が見受けられました。　（プロジェクトオフィサー　神倉　裕太郎）

多くの方々からご寄付をいただきありがとうございました。

朝日医療大学校看護学科様

朝日塾中等教育学校家庭科部様

AMDAの活動は皆様からのご寄付で実施されています

平素よりAMDAの活動にご支援くださいまして、ありがとうございます。AMDAは今年度も国内外の支援活動に取り組んで参ります。特にご支援をお願いしたいプロジェクトをご紹介いたします。

（プロジェクト名）

- **緊急人道支援**　国内外の自然災害救援活動に使われます。
- **災害事前対策**　南海トラフなど大規模災害時、迅速に活動するための準備に使われます。
- **内視鏡技術移転**　海外の専門医の育成と普及により、病気の早期発見、治療を目指します。
- **インドブッダガヤ生活支援**　クリニックの治療や薬に使われ住民の健康増進を図ります。
- **ネパール医療支援**　ネパールの病院の機材や医療品に使われます。
- **中学高校生会**　青少年のボランティア育成と国際理解教育を推進します。
- **次世代人財育成事業**　海外の学生への奨学金、海外の医師の招へいなどの育成に使われます。

★指定プロジェクトが終了した場合は、「AMDAの活動全般」とさせていただきます。
★ジャーナルに同封する郵便振込票は、すべての方に会費・寄付金を催促するものではありません。

NPO法人AMDAへのご寄付は寄付控除の対象になります。
ご寄付の際にプロジェクト別のご寄付指定も可能です。

書き損じハガキ、未使用切手を集めております。通信費の節約に役立たせていただきますので、ぜひご協力をお願いいたします。

VISA・JCBなどのクレジットカードでのご寄附も取扱いできます。またPAYPAL決済も導入しております。詳しくはホームページをご覧ください。

フィリピンでの地震、台風被災者の方々へ支援実施

フィリピンでは 10 月下旬に南部ミンダナオ島でマグニチュード 6 以上の地震が 3 回発生。そして 12 月 2 日から 3 日にかけ強い台風 28 号（現地名：ティソイ）が中部の島々に上陸、各地で甚大な被害を受けました。AMDA は深刻かつ広範囲で被災した状況を踏まえ、発生後に各被災地に調整員を派遣、現地協力者らと支援活動を行いました。

①ミンダナオ島地震被災者支援活動：2 回に渡り岡山倉敷フィリピーノサークルのメンバー計 2 人を AMDA 調整員としてミンダナオ島に派遣。第 1 陣はミンダナオ島南部のコタバト州マグペット町キナルム村に入り、食糧などの物資を 250 世帯に配布。この地区は 3 種類の部族が住む貧しい地区であり、チーム到着時に必要な支援も届いておらず、寄付されたお米がわずかに残っている状態だったため、非常に喜ばれました。また、同州マキララ市の役場に水を提供しました。その後第 2 陣は AMDA フィリピン支部や大学、病院などと一緒にマキララ市の 4 つの地区 5 つの避難所にて医療支援を実施。合計 628 人に医師が診察し、必要に応じて薬剤師が医薬品を提供しました。

食糧セットを手渡す AMDA 調整員

被災した子供を診察する AMDA フィリピン医師

②台風 28 号被災者支援活動：12 月 10 日 AMDA 本部より調整員 1 人を中部のサマール島に派遣。建物も被災し、停電や断水も起きた北サマール州ヴィクトリア町に入り、現地協力者らと 2 日間で家が全壊した世帯を中心とした合計 993 世帯に米や麺、缶詰の食糧を配布しました。「（今回の活動地のような）地方は支援も情報も遅れている。今回の活動で支援をきちんと届けられたのはよかった。」と、調整員は語りました。

（GPSP 支援局　総務担当　ブルックス　雅美）

ようこそ外国人研修生

アユシ エンフ アマル さん
（モンゴル国立医科大学内視鏡医）

8 月 23 日から 11 月 27 日までの約 3 か月にわたり、岡山済生会総合病院で実施された内視鏡技術研修が終了。同病院の内科主任医長、伊藤守先生のご指導の下、多くの症例を通して様々な内視鏡技術の専門的研修を受けました。

神戸で開催された第 98 回日本消化器内視鏡学会総会に出席する機会にも恵まれました。伊藤先生からは、内視鏡技術を今後母国でどう活かすかについてはまだまだ研鑽が必要ですが、基本的な技術と知識については合格点をいただきました。

アマル医師は、今回の経験を日本の ODA で建設された大学病院で活かしていきたいと抱負を抱いて帰国しました。ご協力をいただいた、岡山県、（一財）岡山県国際交流協会に心からの感謝を申しあげます。

（AMDA 理事　難波　妙）

山本イリーナ さん
（アルゼンチン・ブエノスアイレス大学学生）

明るくて、いつも笑顔を絶やさないイリーナさん。AMDA で研修期間中の 8 月 1 日～ 10 月 24 日、周りはいつも笑い声に包まれていました。祖父母の時、アルゼンチンに移住した日系 3 世で、現在国立ブエノスアイレス大学でソーシャルワーカーになるため勉強中です。岡山県の国際貢献ローカル・トゥ・ローカル技術移転事業の補助を受けて来岡しました。

研修では、社会福祉法人「旭川荘」（岡山市北区祇園）で様々な施設を見学。西日本豪雨で被災した小規模多機能ホーム「ぶどうの家真備」（倉敷市真備町）なども訪れ、そして高知県黒潮町では AMDA 中学高校生会、地元の学生たちと防災活動について学びました。約 3 カ月の研修を終え、「日本人はとても優しい」「アルゼンチンにはない、日本の福祉や防災活動を帰国してから活かしたい」と感想を述べました。

（広報担当参与　今井康人）

岡山県国際貢献ローカル・トゥ・ローカル事業